

日本鉄鋼協会記事

理 事 会

第7回理事会 開催日：10月12日。出席者：芝崎副会長，他 27 名

1. 理事補欠選挙結果報告

茨木理事逝去のため評議委員会にて補欠選挙を行なった結果，美馬源次郎君（阪大工）が選任された旨報告がなされた。

2. 金属関係学協会連絡会委員選出の件

五弓勇雄君（東大教授），三本木貢治君（東北大教授）が選出された。

3. 本部・支部の連携について

支部との連携強化について検討した。

4. 来秋講演大会開催場所について

来秋は名古屋地区開催の予定であったが，社会的な問題から，鉄鋼短期大学（尼崎市）での開催を考えることになった。

研 究 委 員 会

第4回研究委員会 開催日：9月2日。出席者：今井委員長，他 21 名

今回は，金属学会，学振，鉄鋼協会の3者の共同で行なっている基礎共同研究会の今後の運営方針について鉄鋼協会としての意見を作成すべく検討を行なった。

基礎共同研究会の中に現在溶鋼溶滓部会をはじめとして6部会があるがそのうち4部会が本年度で大体終了するので，来年度から新しい部会を発足させるとの方針で検討したが，具体的な新テーマを得るところまで行かなかったので次回までに検討しておくことになった。

編 集 委 員 会

第4回運営委員会 開催日：9月16日。出席者：荒木委員長，他 13 名

1. ヘンダーソン賞受賞論文に，当委員会としては下記の論文を決定した。

An Origin of the Recrystallized Grains with Preferred Orientation in Cold Rolled Fe-3% Si (Trans. ISIJ, 9 (1969) 3, p. 222)

金材技研 古林英一

2. 講演大会，会誌の今後のあり方について discussion を行なった。

第9回和文会誌分科会 開催日：11月7日。出席者：荒木主査，他 14 名

1. 論文審査報告

22件の報告があり，掲載可12件，修正依頼10件。

2. 第56年第2号（2月号論文集）論文選定。

21件の論文を選定した。

3. 論文勧誘について

第78回大会の座長メモに基づき論文勧誘を行なうことになった。

4. 委員追加の件

和文会誌分科会の委員を4名追加することになった。

第8回欧文会誌分科会 開催日：10月29日。出席者：橋口主査，他 14 名

1. 4件の論文について審査報告がなされた。

2. 4件の論文について執筆を勧誘することになった。

3. 前会長と名誉会員の場合は，訃報を載せることになった。

4. 英文校閲について検討がなされた。

第7回講演大会分科会 開催日：11月5日。出席者：草川主査，他 22 名

1. 第79回大会討論会テーマは加工部門を除き前回分科会案のとおり決定との報告があつた。加工部門は圧延用ロール（題目未定）に関して吉田浩君に座長を依頼することとなった。

2. 第78回大会の反省を行ない，また会場で配布したアンケートの結果をもとに討議した。

その結果，回収率が悪かつたので会誌概要集に綴り込む場合の案を次回までに作成しそれをもとにさらに検討することとなった。

3. 今後の大会のあり方などにつき検討しさらに次回具体的な案により検討することとなった。

第5回出版分科会 開催日：8月20日。出席者：佐藤主査，他 8 名

鉄鋼製造に関し，作業予定，編集委員会業務，分科会業務，事務処理など詳細について検討した。

なお刊行予定は47年3月とした。

共 同 研 究 会

鋼 板 部 会

第29回分塊分科会 開催日：10月23，24日。出席者：荒木主査代理，他 83 名

1. 議題

(1) 操業作業調査表

(2) 共通議題「均熱炉作業について」

(3) 自由議題

について各作業所より発表討論を行なった。

2. 次回分科会

席上アンケート結果

昭和45年春 八幡製鉄 君津

議題などは在京委員会で検討することになった。

鉄 鋼 分 析 部 会

第25回部会（4分科会） 開催日：10月8日。出席者：池野部会長，他 71 名

部会・分科会は川崎製鉄水島製鉄所において10月6～8日に開催された。部会長は今回より池上氏から池野氏（富士鉄）に交代した。本部会においては各分科会の活

動報告の後、分析規格体系調査報告について説明が行なわれた。この報告書においてはJISの分析の書式を統一するよう要望されているが、現在、進行中の「鉄鉱石の分析方法」見直しから提案された書式に依ることが確認された。

第15回発光分光分析分科会 開催日：10月6日。出席者：杉山主査，他 42 名

日本鉄鋼協会の鉄鋼標準試料（機器分析用）の評価のための共同実験結果の整理発表が行なわれた。その結果

1. 分光学的均質性、鉄量、共存元素の影響について一応の評価が得られた。

2. 元素によつてはバラツキがあつたり、化学分析による標準値との間にズレが生じる。これらの結果に基づき機器分析用標準試料について標準試料委員会へ報告するとともに、新たに検量線シリーズの選定を試みることになった。

第16回蛍光X線分析分科会 開催日：10月7日。出席者：川村主査，他 36 名

定量法一元化に関する第3回共同実験結果の整理を報告、審議した。その結果、今回の共同実験で求められた d_i は実用上評価してもよいという意見が多く、今回で定量法一元化の共同実験は打切ることとなった。

なおこの d_i を用いて各委員の結果をできるだけ多く報告してもらうことになった。

今後の運営については粉体試料での分析を取りあげるべきとの点で一致し、小委員会で具体案を協議することになった。

第6回化学分析分科会 開催日：10月7日，出席者：新見主査，他 54 名

現在当分科会においてJIS鉄鉱石分析の見通しを行なっているのを、鉄鉱石化学分析、原子吸光分析を中心に審議した。

1. 鉄鉱石化学分析

(1) Al_2O_3 , CaO , Cr , As , Zn , Pb , Bi , TiO_2 の案文が決定した。

(2) MgO , Ni , V , Sn , Na_2O , K_2O , 化合物, T , Fe , TiO_2 , Co に関しては今後共同実験を行なうことになった。

2. 原子吸光分析

(1) 鉄鉱石： Ni , Cr , V , Bi 分析の正確度を検討のうえまとめることになった。

(2) 鉄鋼：共同実験の結果、良好に分析しうることが判明。化学分析と比較検討の上まとめる予定。

3. 鉄鋼化学分析： S の ISO 法共同実験試料ポート，その他を配布。

なお今回のJIS見通しに当たっては、分析規格体系調査報告書の様式に従つて書式統一することになった。次回は11月24日開催の予定。

第19回鋼中非金属介在物分析小委員会 開催日：10月6日。出席者：成田小委員長，他 17 名

1. 第4回 $Fe-V-C$ 試料共同実験結果：電解法による V 化合物定量共同実験を行なつたが、抽出条件のわずかな差が誤差を生じる原因と考えられる。今までの実験により比較的安定な形態の化合物であれば定量できるとの結論に達した。

2. パナジウム分科会（基共研）より依頼の分析試料は今までに得られた方法（7% HCl -3% $FeCl_2$ -E.g）によつて行なうことを決定。

3. 今後の方針： $Fe-V-C$ 系試料の検討を終えたので今後は（1） V 族と Ti 族化合物の形態別分析（2） $Fe-V-C$ 系試料での第3元素の影響の調査を行なう。とりあえずは $Fe-V-Cr-C$, $Fe-V-Mo-C$ 系試料について共同実験を行なうことになった。定量は酸性電解法による。次回は12月中旬に開催の予定である。

熱経済技術部会

第44回部会 開催日：10月21, 22日。出席者：桑畑部会長，他 60 名

東京学士会館分館で開催した。

今回は製鋼工場におけるエネルギーバランス（43年度の各社のまとめ）、熱管理関係部門の組織と業務内容（アンケート）、エネルギー管理の問題を中心に研究発表が行なわれ、活発に議論された。

第1日目午後下記の特設講演が行なわれた。

1. 鋼材の誘導加熱

神鋼電機(株) 藤本正男氏

2. 鋼管製造用誘導加熱装置

神鋼電機(株) 星加晴雄氏

3. 大型スラブの誘導加熱装置

日本アジャックス・マ
グネサーミック(株) 鈴井正憲氏

4. 高周波誘導加熱の鉄鋼への応用

東京芝浦電気(株) 香原 了氏

品質管理部会

第22回部会 開催日：10月8, 9日。出席者：辻畑部会長，他 83 名

1. 議題 (1) QC とコンピューター

(2) 外注管理

(3) 自主管理活動

(4) 手法事例

について15事業所より発表討論が行なわれた。

2. 特別講演

「体質改善とQC」

住友電工 野崎管理部長

標準化委員会

ISO 鉄鋼部会

第7回 TC17/SC1 分科会 開催日：9月29日。出席者：川村主査，他 6 名

池上主査が辞任され、今回から川村氏（富士鉄中研）が新主査に就任した。

1. けい素吸光度法に対する日本側意見をまとめることになった。

2. りんの吸光度法について妨害元素の影響に関する提案が英国から出されているが日本側の意見を次回までにまとめることにした。

3. いおうの高周波燃焼法の採用を求める豪洲の提案に対しては、他の国に同調する。

ニダル法については時期を待つて整理し日本側の態度を決める。

なお ISO 法は実害がない限り JIS に取り入れることに決定した。

第7回WG12分科会 開催日：10月16日。出席者：三佐尾主査，他 9 名

9月8日～12日にデュッセルドルフで開かれた第2回WG12国際会議の出張報告が行なわれた。絞り用熱間圧延鋼板の伸び値の規定が厳しすぎるので、最終案が到着次第、日本として意見書を提出することとなった。

第2回 JIS・PC 硬鋼線原案分科会 開催日：10月3日。出席者：猪股主査，他 25 名

前回分科会議事録確認の後幹事より第2回目の修正案について説明，討議がなされた。

(1) 適用範囲について『この規格はプレストレストコンクリートくい，ボール，高圧管およびタンクに』の項は表現が不明りょうなので幹事側で検討する。

(2) 記号について SWCR 1～3 および SWCD 1～3 とする。なお断面記号については表示を削除する。

(3) 線の呼び名 寸法については 6.0mm の () を外す。また使用実績や将来需要が増す傾向のある 3.0 mm, 3.5mm, 4.5mm を追加し 7.0mm～9.0mm も原案どおり残すこと。

(4) 製造方法 『常温で冷間加工』の項では常温を削除する。熱処理の表現についてはパテンティングを示し DP も含めることを解説に示す。なおブルーイングした場合は適用外になる。

(5) 機械的性質 3.0mm, 3.5mm, 4.5mm の機械的性質はメーカー側の実績により決める。

本案の伸び クラクセーション値は不適当なのでメーカーからのデータを検討し十分保証できる数値で案を作る。

(6) 外観および形状 メッキに関する規定は入れない解説に入れるかどうかは幹事側で検討する。またメッキ線は本 JIS 製品とはいえない。

(7) 寸法および許容差 原案どおりである。なお公称断面積表を追加する。

(8) その他 各メーカーで生産している寸法のものの伸び，リラクセーション値 SS 曲線を 30～40 数 n について 11月15日までに幹事側に提出する。

次回は 12月17日(水)の予定。

第6回 JIS 低温圧力容器用鋼板規格原案分科会 開催日：10月20日。出席者：金沢主査，他 14 名

ニッケル鋼を除き，低温圧力容器用炭素鋼鋼板規格として，前回までの結果より作成した。

(1) 規格(案)

(2) 審議経過報告書

について検討を行ない，一部修正の後認められた。これをもつて本委員会に答申することとし，当分科会の活動は本委員会での規格原案承認をもつて終了となる。

鉄鋼標準試料委員会

第29回委員会 開催日：9月29日。出席者：池野委員長 他 21 名

池上委員長が辞任され，新委員長には池野氏（富士鉄中研）が就任した。池上前委員長には長年の功績を讃えて鉄鋼協会より感謝状を贈呈した。議事概要は次のごとくである。

1. 標準試料の販売・製造状況報告。本年は試料製造が多いので，新鋼種の標準試料の作成は困難である。
2. 酸素分析用標準試料の作成には技術的に困難があるので納入価格を値上げしたい旨の要請があつたが，販売価格を上げた場合のデメリットなどを考慮して，再検討することになった。
3. 機器分析用標準試料（検査線シリーズ）は元素によつて補正を必要とするケースがあるとの報告があるので次回までに検討データを提出して審議することになった。

次回は 12月に開催の予定。

資料委員会

第59回委員会 開催日：10月31日。出席者：草川委員長，他 14 名

1. 大同製鋼(株)東京支社技術課長，芝田弘之新委員を紹介した。
2. 鉄鋼技術情報専門センター（仮称）構想（案）について細部にわたつて，検討しなおすことにした。
3. Chemical Abstracts に関する ACS からの提案に関する日本化学会からの検討依頼について事務局から報告があつた。
4. カタログ分類について，従来の分類のみでは，不十分なので新分野を含めて，分類（案）を提出したが，各項目について，その他という部門を入れそれで補うことにした。
5. 昭和45年度予算(案)について雑誌図書の購入費など大体15%は，金額が上るので図書費を訂正して，会計分科会に提出することにした。図書の購入については，国際会議関係のプレプリント，プロシーディング，海洋開発関係部門などを中心に購入することになった。

ジェットエンジン用耐熱合金研究委員会

第5回委員会 開催日：9月16日。出席者：雑賀幹事 他 24 名

補助金交付決定に伴い本年度計画の新熱疲労試験機の製作および試験計画の実施について検討していたが今回の委員会で次のとおり決定した。

(1) 新熱疲労試験機の仕様検討結果

新熱疲労試験機は試験片に熱サイクルを与えるとともに，機械的荷重を同時に与えるもので，棒状試験片については直接通電加熱式とし，板材についてはパイプ状試験片を作り高周波誘導加熱式の加熱方式を採用することになり承認された。

(2) その他の比較試験としてヒートチェック法とコフィン法を行なうことも承認された。

(3) 試驗合金

試験片素材はU500, A286 (棒材)

INCOLOY-T (板材) で行なうことになり数量の確認を行なった。

3. 上記方針に従い、非金属介在物部会、微量元素部会転位論部会は終了する。溶鋼溶滓部会第4、5分科会は部会として独立させる。純鉄部会は来年度で終了する。
4. 新規テーマとしては再結晶集合組織、遅れ破壊について検討することになった。腐食防食、凝固という案も出たが、現状では考慮しないことになった。

鉄鋼基礎共同研究会

第11回運営委員会 開催日：10月22日。出席者：三島
委員長、他 20 名

基礎共同研究会も設立後5年を経過し再検討期にあるので、部会の運営方針、新規テーマなどについて活発な論議が交わされた。

1. 各部会活動報告
2. 基共研運営方針について次のような点で合意をみた。
 - 1) 部会の存続期間は準備・整理各1年、研究3年、合計5年とする。
 - 2) 研究テーマは狭く絞って5年以内にまとまるもののみについて取りあげる。
 - 3) 研究参加者は若手に絞り、資格年令に、ある上限を設ける。
 - 4) 新部会設立に当たっては旧部会とは人事、テーマとも独立して考える。

強度と靱性部会

第7回部会 開催日：10月13日．出席者：荒木部会長
他 7 名

広島での講演大会の第3日目の昼休みに各委員が集まるチャンス設け意見交換を行なった。

1. 今年度申請した文部省特定研究「鉄鋼材の強度と破壊」は却下された。申請書の内容については若干問題があつたので、内容を検討のうえ、来年度再び申請する。
 2. 来年度は当部会主催のシンポジウムを開催する。その内容などについては幹事会を開いて協議する。
 3. 来年度からは実質的な共同研究を開始することとするが、テーマは強度と靱性という広いテーマでなく、極く狭く絞つて行なう。詳細については上記と同様幹事会において協議する。
- なお幹事会は11月上旬、次回部会は11月下旬に開催する予定。

新入會員氏名

(昭和9月1日～30日)

正 会 員		福 田 充 一 郎		〃		平 田 宏		大 同 製 鋼 (株) 知 多	
石 岡 千 里	(株) 神 戸 製 鋼 所 加 古 川	牧 浦 宏 文	〃	〃	〃	淺 井 忠	(株) 山 崎 鉄 工 所	〃	〃
大 塚 正 倫	〃	長 崎 啓	〃	〃	本 社	長 野 茂	鋼 和 (株)	〃	〃
川 内 勲	〃	南 村 八 十 八	〃	〃	和 歌 山	大 浜 信 一	石 川 島 播 磨 重 工 業 (株)	〃	〃
殿 納 孝	〃	白 田 松 男	富 士 製 鉄 (株) 本 社	〃	〃	〃	〃	〃	〃
鍋 谷 昭 生	〃	菊 池 種 男	〃	〃	釜 石	加 藤 幸 二	北 海 道 大 学 工 学 部	〃	〃
野 見 山 治	〃	野 村 弘 八	〃	〃	名 古 屋	佐 藤 一 昌	〃	〃	〃
府 川 信 一	〃	桐 谷 武 男	川 崎 製 鉄 (株) 千 葉	〃	〃	土 田 裕	〃	〃	〃
福 塚 修	〃	佐 藤 幸 男	〃	〃	〃	中 川 純 一	京 都 大 学 工 学 部	〃	〃
峰 久 允	〃	柴 田 富 士 雄	〃	〃	〃	加 藤 義 雄	名 古 屋 工 業 大 学	〃	〃
三 元 至 孝	〃	鈴 木 均	日 本 鋼 管 (株) 技 研	〃	〃	〃	〃	〃	〃
三 沢 博 士	〃	峯 岸 功	〃	〃	〃	SKF STAL	〃	〃	〃
福 井 省 吾	住 友 金 属 工 業 (株)	高 瀬 勝	八 幡 製 鉄 (株) 八 幡	〃	〃	Mr. James Saville, Australia	〃	〃	〃
〃	中 技 研	古 林 英 一	金 属 材 料 技 術 研 究 所	〃	〃	Mr. Eric E. Nyholm, Australia	〃	〃	〃

東北大学金属材料研究所の教授公募

1. 公募人員 教授1名
2. 専門分野 金属分析 この部門では、従来元素分析を主とし、状態分析を従として、研究がすすめられてきましたが、今後は物理的・化学的方法によつて、化合物、介在物などの状態を、確定、定量する研究を、推進される方を望みます。必ずしも従来の分析専門の方に限りません。
3. 公募締切 昭和 45 年1月 31 日
4. 提出書類 (イ) 推薦の場合 推薦書、履歴書、研究歴(業績論文リスト、主要論文別刷)
(ロ) 応募の場合 履歴書、研究歴(業績論文リスト、主要論文別刷) 今後の研究計画
5. 宛 先 980 仙台市片平丁東北大学金属材料研究所 金属分析部門教授推薦選考委員会
下平三郎 電話 仙台 (0222) 27-6200 内線 2918
6. なお詳細を知りたい方は下平氏宛にお問い合わせください。